

# 緑川における減災のための 目標(案)について

# 緑川の特徴と住民意識

## ■ 緑川の特徴と、住民意識(アンケート結果による)

① 緑川では、浜戸川・加勢川・御船川などの支川が流れ込んでおり、雨の降り方により、洪水氾濫の発生する地域が異なる傾向にある。

流域には4市8町1村が存在しており、堤防決壊等が発生した場合には、複数の市町村が浸水するという氾濫特性がある。

また、平成28年4月の熊本地震を受け、広い範囲で地盤の沈下が見られており、特に低い地域では浸水がたまりやすく、長期化が懸念されている。

② アンケート結果では、近年の全国的な豪雨災害により「防災意識は高まりつつある」が、「避難情報等の意味を理解されていない方が約4割」、「ハザードマップを認識していない方が約8割」に達した。さらに、緑川が氾濫しても「自宅は安全で、被害を受けないと思われる方が約7割」を占めるなど、水害リスクに対する認識が低い状況にある。

③ 先人より受け継がれてきた水害の記憶や文化、歴史的な治水施設が流域に残されているが、河川改修の進捗に伴う浸水被害の減少により、水害を経験していない人が増加しつつあるなか、防災意識が薄れており、流域の歴史・文化が風化してしまう懸念がある。

また、防災に対する地域社会での共助の意識も低い。

# 取り組み目標(案)【緑川】

## ■5年間で達成すべき目標

複数の河川が流れる緑川流域の大規模氾濫に対し、『水害に強いまちづくり』と『迅速で的確な避難行動』を目指す。

## ■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

1. 緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、人命・社会経済への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の検討及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築
2. 緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進
3. 特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信